

**実施者**

《教 員》千葉工業大学 先進工学部生命科学科 五明 美智男

《参加者》千葉工業大学 先進工学部生命科学科社会生態工学研究室 3年 青柳 辰哉、木下 睦

《協働パートナー》

【行政】南房総市産学協働地域活力創造事業 PT 会議（市民課市民協働 G、教育委員会）

【市民団体】南房総市富山地域づくり協議会「ふらっと」

【学校】南房総市立富山小学校 5 年生 31 名、5 年生担任および関係教諭

1. 背景・目的・活動内容**(1) 背景**

東京湾に面する内房地域にある岩井海岸は、首都圏から近いこと、波穏やかで遠浅な地形に恵まれていること、風光明媚な景観を有すること（陸側に富山、沖合に東京湾を行きかう船舶と神奈川、富士山が望める）などから、観光客等が一年中楽しめる南房総市の重要な地域観光資源のひとつとなっている。しかしながら、変容する社会環境、多様化する社会ニーズにより、観光客の減少傾向がみられる一方、高波浪による浸食、冬季に吹く西風による飛砂、海岸背後の防風林の枯れや荒廃などによる地域資源としての里海の環境の劣化が見られる。現在、地域住民で組織する地域づくり協議会や地元青年（民宿・飲食店の後継者等）の団体等が、里海の環境を維持するため浜芝の整備や清掃、飛砂対策、イベント開催などを行っている。

一方、地域で学んだ子どもたちは、中学卒業後は木更津・館山などの高校へ通い、進学、社会人と続く成長の中で、生まれ育った里海との距離がと遠くなる傾向がある。

(2) 目的

2020 年度に続き、小中一貫校の富山学園の小学 5 年生による箱庭生態系模型づくりとして、今年度は、特に岩井海岸に焦点を絞って「ぼく・わたしの考える岩井海岸」と題し、里海の未来ビジョンづくりを行った。小学 1 年から中学 3 年まで続く 9 年間の富山学の折り返し時に、自分で見て手を動かしてものをつくることで、自分たちの財産でもある里海の将来を意識すること、そうした機会を原体験として提供することを目的とした。

(3) 実施期間

2021 年 7 月から 2022 年 12 月の計 4 回の授業(1 回あたり 2 限)および小学校単独での海岸見学、授業参観での発表、まとめを実施した。

(4) 活動内容**1) 第 1 回授業 岩井海岸研究紹介と手法の説明および今年度の進め方の打ち合わせ**

自己紹介と研究紹介をとおして海岸の魅力を伝えた。授業で使う PKJ 法（写真による KJ 法）と箱庭生態系模型について、印旛

沼の作成例を展示して説明するとともに夏休みの取り組みについて提示した。授業後の打ち合わせにて、学生参加による岩井海岸での PKJ 法を 9 月 7、8 日の予定で実施することとした。(7 月 5 日 5・6 限)

2) 夏休み宿題・岩井海岸の見学

4 年生までの総合学習を振り返り、岩井海岸の良いところ改善すべきところなど、毎日の暮らしの中で見つけ出すことを宿題とした。コロナ感染症の対策もあり 9 月の大学生とのイベントは中止としたが、小学校での岩井海岸の踏査などをふまえ、箱庭プランの作成をすすめた。

3) 第 2 回授業 箱庭模型作成プランの発表

保護者からの意見もふまえ、各グループの箱庭作成プランの発表を行い、教員よりアドバイスをを行った。(11 月 9 日 1・2 限)

4) 第 3 回授業 箱庭模型の作成

第 2 回以降また直前に実施された授業参観の発表など、適宜修正を加えたプランにもとづいて箱庭づくりを行った（写真 -1）。学生は第 3 回と第 4 回に参加し、子どもたちと一緒に箱庭を作成することとなった。(12 月 2 日 3・4 限)

5) 第 4 回授業 箱庭模型作品の発表および講評

子どもたちの司会進行のもと、小学生 8 グループ、大学生の作品発表を行った（写真 -2）。あわせて、各模型内容についてのコメント・講評を整理し共有した（写真 -3）。(12 月 9 日 3・4 限)

6) 5 年生クラス模型のまとめ

昨年度は上記 5) で終了としたが、今年度はクラス全員の箱庭を 1 つにまとめるワークを提案し、進め方は担任の先生に一任した。出来上がった作品を写真 -4 に、先生の働きかけの一部を以下に示す。「年が明けて、この後どうするかと問いかけると、4 年生に発表したいという声が上がった。どうやって発表する？とさらに問い返したところ、同じようにグループ発表をしようと言ったため、五明先生から面白い話をいただいたよと、全体で作ることを提案した。すると子供たちはおもしろそうと興味をもった。この時、すでに自分が何を書くかは決まっていたようである。時間も 2・3 時間で画用紙に書くことができた。・・・以下省略」(1 月 31 日)



写真 -1 箱庭の作成状況

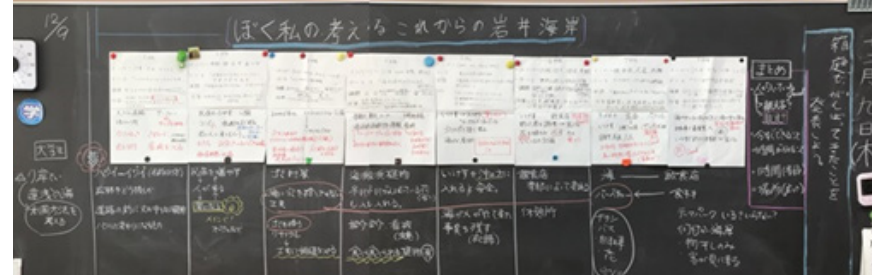


写真 -3 箱庭の作成状況



1 ハワイのようににぎやかな海
2 民宿がたくさんあり、いろいろな人が来る岩井海岸
3 ゴミリサイクル岩井海岸
4 海浜植物がたくさんある岩井海岸
5 魚も人も元気の岩井海岸
6 魚がいっぱいいてゆったりできる岩井海岸
7 にぎやかでパワースポットな岩井海岸
8 テーマパーク岩井海岸
大学生 利用を考えた岩井海岸

写真 -2 作成した箱庭

域学協働の工夫！

★外部専門家、学生の関与（小学校から見た場合は社会人の活用）

★地域の学びを通した小学校と家庭、親子の結び付け

★地域協議会の情報発信による本事業の周知、保護者・地域への浸透

★地域にかかわるお互いを意識する“相手意識”の醸成（5 年生担任の先生より）

2. 成果と課題**(1) 地域貢献面**

箱庭づくりも 2 年目となり、今年度はすべてを大学・教員側で用意、実施するのではなく、授業間のつなぎ、授業後の活用などについては、小学校のクラス担任に任せなどいくつかの試みをした。コロナ禍の影響もあって授業回数は減ったものの、むしろ毎回の授業の内容が明確になった。地域連携のパートナーとしてより適切な分業体制で進められたことは大きな成果であり、改めて相互のかかわりの重要性を認識できたのではないかと考えている。

過年度報告では、学生のかかわりをよそ者の視点という形でとらえていた。制限はあったものの学生が参加できたことは大きく、今後は同じ教室で同じ作業をしている場面からいろいろな展開、可能性が期待できるものと思われる。

(2) 教育・研究面

大学での学びの後、社会人となる学生にとって利害関係者として想定していない子どもたちとの時間と空間の共有は大変有意義

*表彰・マスコミ掲載など

・富山地域づくり協議会「ふらっと」 Facebook <https://www.facebook.com/tomiyamafat/>

・富山地域づくり協議会「ふらっと」 ふらっと通信

であると考えられる。極端な言い方をすれば、夢を形に作り上げた子どもたちに対し、大学での学び（知識を）を形に作り上げたところとらえている。学生たちも子供たちの発表を聞いて感じるところがあったはずである。地域連携の場に学生を連れ出し、実践の問題にかかわらせる教育効果は改めて認識したところである。

心理療法にヒントを得た箱庭模型作りは、今後広い年代層で、手軽に取り組んでもらうことで、地域の合意形成などにも資するところがあると思われる。さらなる検討を進めたい。

3. 今後の展開

昨年度の報告では、一時的ななかかわりともいえる“点”ではなく、一年を通しての“帯”としての成果を指摘し、今年度は続けて実施することでの“広がり”がでてきたものと考えている。今後は、地域貢献、教育、研究でのさらなる貢献と発展を目指しつつ、連携の基本でもある“つながり”を持ち込めるような工夫をしていきたい。